http://decfamily.p1.bindsite.jp/2017/

We 25R

No.250　17/07/13

模試から足元を振り返る

昨日の学年集会で模試を返却したが、受験してから返却されるまでにタイムラグがあるから、返却した時には、どうしても成績ばかりが（数字ばかりが）気になってしまうものだが、大切なことは「できないところ」を確認することである。

もはや問題も忘れかけているかも知れないが、解き直しをしたという人も、結果のグラフを見て、全国平均よりも下回っている（全国平均に近い）問題があったら、再度目を通してみよう。一度解き直しをしているのだから、そんなに時間はかからないはずだし、今度は余裕で？解けるはずである。もし、余裕をもって…とは言わないまでも、再び挑戦して解けなかったら、それはその問題がまだ身についていないということである。繰り返し丁寧に解法を（海宝を？）研究しよう。例えば漢文などは、書き下し文や句法の問題になった一節については、白文を見ただけで読み方が浮かんでくるくらいにしたいものだ。

さらに、解き直しが「まだ」という人は、ぜひこの三連休のうちに解き直しをしておこう。解き直しをしない模試ほど意味のないものはない。

もう耳タコだとは思うが、初めて見る問題（教科書や副読本の範囲が決まっている定期考査の問題ではなく、まったく初見の模試の問題）が解けるのは、それまでに身につけた知識を応用・活用するからに他ならない。ということは、初見の問題ができるようになるためには、身につけた知識を確実なものにすることと、既習の問題を確実に解けるようにする以外に方法はないのである。それが、模試の解き直しの意味である。

＊

国語はまずまずの成績で、解説した通り、良い点は「過去最高の平均点だったこと、そして下位層がきわめて少ないこと」であるが、一方、これからの課題となることは、全国レベルでの上位層が少ないことである。ただし、日比谷レベルの学校では、下位層を引き上げるよりも、上位層を育てることの方が比較的容易である。その意味では、このまま努力を継続してくれれば、全国レベルでの戦いが強いられる受験においても、かなりイイ結果が期待できるということだ。

数学・英語の解説も含め、総じて灼熱の？あの場で各先生が伝えようとしていたことは、「成績は順調に推移している」、だから「不得意分野をしっかり復習しなさい」ということだったと思う。不得意なことと向き合うのは大変だし、自分も漸化式を捨てた過去があるのだが（笑）、どうか君たちには踏ん張ってほしいところである。

＊

ところで、S藤先生がおっしゃっていた「サクシードの提出率が落ちている」というのは気になるところ。こういう「すぐ足元」の所から崖は崩れ始め、それが結果として取り返しのつかない事態へと結びつくのである。

日比谷では、日々の授業を確実にこなせば塾も予備校もいらない。むしろ、塾や予備校に頼った人の第一志望突破率が悪いことは、明らかな結果となって表れている。今回の模試の結果が今一つだった人で、もし外部に助けを求めている人がいるとしたら、もう一度「足元」を確かめてみた方がイイのでは。